

はばプラⅡ 家庭科・家庭分野 「つかむ」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【問題を見いださせる指導の工夫】

問題とは：
 ・題材の目標（よりよい生活）と現在の生活との違いや差
 ・目標と比較して、できていないことやもっと知りたいこと、できるようになりたいこと等

<例>

- 生活を見つめさせる。
- ・自分の生活を見直す。
- ・家族や地域の人へのインタビュー 等
- 客観的な資料を提示する。
- ・教科書
- ・統計資料
- ・児童生徒や家族、地域等へのアンケート結果
- ・課題につながる画像 等
 （例：調理実習や幼児ふれあい体験の様子等）
- 見本となる製作品や料理等を提示する。
 （例：調理や製作の完成品）
- 今までの学習を想起させる。
- ・教科書やノート
- ・他教科の学習 等

【「めあて」の設定】

○学習内容が見えないため、「活動・テーマ」の要素にかかわる「めあて」が多くなる。

<例>

「見いだした問題を基に、課題を立て、学習の見通しをもとう。」

【課題を立てる際のポイント】

- 題材の学習後の姿を踏まえる。
- いくつかの問題をつなぎ合わせる。

【振り返りの視点】

○本題材の学習終了後に、どのようなことができるようになっていたか考えさせ、これからの学習への意欲付けを図る。

<例>

- ・「(題材の学習を通して)○○ができるようになった。」
- ・「できないことや知らないことがあったので、これからの学習が楽しみだ。」

基本的な流れ

1 生活の中から問題を見いだす。

- 教科書や見本となる製作品等を基に、題材の目標である具体的な姿を全体で共有させる。
- 題材の目標を達成すると、どのようなよさがあるのか考えさせる。※学ぶ必要感を持たせられるようにする。
- 課題につながる問題を出し合わせる。

2 本時のめあてをつかむ。

- 本時のめあては、見いだした問題を基に課題を立て、題材を通してどのような学習をするのか見通しをもつことを伝える。

【めあて】

3 見いだした問題を基に、題材の課題を立て、学習の見通しをもつ。

- 一人一人が見いだした共通する問題を明らかにさせる。
- 共通する問題を基に、解決すべき課題について話し合わせる。

題材の課題

〈題材の目標に到達するための大きな問い〉

- 見いだした問題や教科書の学習内容を基に、大まかな学習計画を立て、題材の学習の見通しをもたせる。

4 一人一人が本時の学習の振り返りをする。

- 題材の課題と解決するための学習の計画について確認させる。
- 本時の学習の振り返りを記述させ、発表するよう促す。

単位時間の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

教師の指導・支援

1人1台端末の活用

大型提示装置・教師用端末の活用

【表現】
 ○提示された資料をもとに自分の生活を見直して気付いたことや知りたいことを入力、電子ファイルへ保存する。

【学習データの蓄積】
 ○教員用端末に送信する。
 →学習過程やまとめの段階で、再生することで、生活の中からどのような問題意識をもち学習を進めたのか確認できる。

<例>
 幼児ふれあい体験や調理実習などの画像
 見本となる製作品や料理の画像
 生活についての児童生徒、家族、地域等へのアンケート結果 等

○教員用端末で学習状況を把握する。

【協働での意見整理】
 ○大型提示装置や端末を活用し、個々の意見を集約、分類・整理する。
 →どのような問題が多いのか、複数の意見を可視化して、共有・焦点化できる。

○一人一人が見いだした問題を集約し、大型提示装置に表示する。
 →どのような問題が多いのか視覚的に捉えさせる。

【表現】
 ○文章作成ソフトで個々が考えたキーワードを入力
 →個々が考えた言葉をもとに、題材の課題を立てることができる。

○デジタル教科書等で学習内容を大型提示装置に提示する。

【学習データの蓄積】
 ○端末等へ題材の課題や振り返りの内容を記録する。
 →自己の学びの確認ができる。
 →次時の学習への見通しがもてる。

○学級全体で題材の課題を立て、大型提示装置に表示する。

○題材の学習計画を大型提示装置に表示する。

○大型提示装置で個々の振り返りの共有・紹介をする。

はばプラⅡ 家庭科・家庭分野

「追究する1(知識及び技能の習得)」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【「めあて」の設定】

○「追究する1」過程では、「活動・テーマ」の要素を含んだ「めあて」の設定が多くなる。
 ○「①どんな活動を通して、②何を学習するのか」が具体的に分かるようにする。
 <例>「○○(実践的・体験的な活動)を通して、△△について～しよう。」

【実践的・体験的な活動の充実】

○課題解決に向けて、試行錯誤したり、実物に触れたり、観察したりさせるようにする。
 ○活動の手順や方法等については、教科書で確認をさせたり、視覚的に分かりやすく提示したりする。
 ○一人一人が十分に活動できる工夫をする。

<学習形態の例>

・実習班の人数を少なくする
 (ペア調理、学級を半分ずつに分ける等)

<学習環境の例>

・全員が体験できるミシンの台数を確保する
 ・手順の掲示・ICT機器の活用等

【各自の気づきからのまとめ】

○活動を通して気付いたことの根拠を明らかにさせる。

<例>ほうれん草は、ゆでる前と比べて、かさが減った。

○実習等で体験したことを書いたり、説明したり、話し合ったりさせる。

○児童生徒の気づきを、本時のまとめにつながるように、整理しながら板書する。

○理解させたいことに気付かない場合には、グループで話し合わせたり、教師がねらいにせまる問いかけをしたりする。

○児童生徒の気づきから一般化した言葉でまとめる。

<例>

ほうれん草をゆでることを通して、ゆでる調理の仕方を理解させる場合
 (気づき)ほうれん草は湯からゆでるとよい。
 →一般化した言葉によるまとめ
 ほうれん草などの葉物の野菜は、湯からゆでる。

【振り返りの視点】

○分かったことやできるようになったこと、生活に生かしたいこと、もっと知りたいこと、やってみたいことなどを考えさせる。
 <例>「○○の仕方が分かった・できた」等

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 学習計画における本時の位置付けを確認させる。
- ノートやワークシートの記述、教科書等を確認しながら、前時までの学習を想起させる。

【めあて】

2 実践的・体験的な活動を行う。

- 活動のねらいや手順、注意事項を確認させる。
- 一人一人が気付いたことを言葉や図表等を使い、ワークシート等に自分の言葉で書かせる。

【まとめ】

3 全体で共有し、まとめる。

- 一人一人が気付いたことを言葉や図表等を使い、グループや全体で発表させる。
- 理解させたいことに児童生徒が気付かない場合には、教師が問いかけたり教科書等で確認をさせたりする。
- 課題解決のために必要な基礎的・基本的な知識を次の学習や家庭・地域などの生活の様々な場面で活用できるように、児童生徒の気づきを、一般化した言葉でまとめる。

【まとめ】

4 本時の振り返りをする。

- 本時で分かったことやできるようになったことを確認させる。
- 本時の学習の振り返りを記述させ、発表するように促す。
- 次時への予告をする。

【振り返り】

単位時間の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動 協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】
 ○前時までの学習内容・振り返りを確認する。
 →学習状況の把握をし、本時の見通しをもてる。

【個に応じた学習】
 ○端末で動画等を再生して確認する。
 →ポイントを拡大、繰り返し確認しながら練習し、技能の習得を図る。
 →【家庭学習】にも活用できる。

【思考を深める学習】
 ○デジタル教材等で確認する。
 ○端末の写真機能を使い記録する。
 ○端末の動画機能を使い、録画する。
 →技能のコツなどの気づきにつなげ、実感を伴った理解を深める。

【表現】
 ○文章作成ソフトで個々の考えのまとめを入力、電子ファイルに保存する。
 →個々の考えを共有し、多くの児童生徒の言葉を基に、まとめることができる。

【学習データの蓄積】
 ○端末等へまとめや振り返りの内容を記録する。
 →自己の学びの確認ができる。
 →次時の学習への見通しをもてる。

<例>
 ・包丁の扱い方や材料の切り方
 ・調理実習の手順
 ・玉結びや玉どめ、まつり縫いの仕方
 ・ミシンの上糸や下糸のかけ方
 ・布を用いた物の製作の手順
 ・衣服の手洗いの仕方 等

<例>・各自のタブレットPCにサーモカメラを接続して撮影することで、暑い、暖かい、寒い、涼しいという体感的なものを可視化する。
 ・洗剤の働きを可視化する。 等

【発表や話し合い】
【協働での意見整理】
 ○撮影した動画や映像を再生する。
 →技能のコツなどを話し合わせる
 ○観察、実験、実習等の結果を図表やグラフ、写真等を用いてまとめ、発表する。
 →考えを共有させる。
 ○大型提示装置や端末を活用し、個々の意見を集約、分類・整理する。
 →多くの児童生徒の言葉を基に、まとめることができる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

○大型提示装置で学習計画を提示する。

○大型提示装置で本時の学習に関連する資料を提示する。

○実物投影機や大型提示装置で拡大・動画等の機能を活用して、調理や製作の示範で教師の細かな手の動きを表示し、ポイントを明確につかませる。

○大型提示装置で個々のまとめを表示する。
 ○大型提示装置に個々の考えの根拠となる資料を表示する。

○大型提示装置に学級としてのまとめを表示する。

○大型提示装置で個々の振り返りの共有・紹介をする。

はばプラⅡ 家庭科・家庭分野

「追究する2(実践(実習)計画の作成について)」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【「めあて」の設定】

○「追究する2」過程(実践(実習)計画の作成)、では「活動・過程」の要素を含んだ「めあて」が多くなる。
 <例>
 「~~~~できるように、〇〇の実践(実習)計画を立てよう。」等

【実践(実習)計画の立て方】

○実践(実習)の方法や手順等について、教科書を参考にさせる。
 ○布を用いた製作の計画を立てさせる際は、製作物の見本や段階見本を示す。
 ○実践(実習)によって、個人で計画する場合とグループで計画する場合がある。

<実践(実習)計画の例>

- ・調理実習計画
- ・製作実習計画
- ・買い物計画
- ・幼児との触れ合い計画
- ・「快適な住まい方」についての実践計画等

【検討の視点】

○検討の視点を児童生徒に考えさせたり、教師が示したりする。
 <検討する際の視点の例>

- ・目的に合っているか
- ・既習の知識や技能を活用しているか
- ・題材の課題や個人の課題の解決につながっているか
- ・よりよい生活になっているか

○活発な交流ができるように、学習形態を工夫する。

<例>
 ペア、班、作品別や課題別グループなど

○外部講師からアドバイスをしてもらう場合もある。

【振り返りの視点】

○計画を立てたり、検討・改善したりしたときの場面を振り返らせ、新たに気付いたことや工夫したこと、実践(実習)でがんばりたいことを考えさせる。

<例>

- ・「〇〇について、教えてもらった方法にしたら、うまくできそうだ。」
- ・「工夫したことは、~~~~だ。計画通りに実践ができるようにがんばりたい。」

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- ・学習の計画における本時の位置付けを確認させる。

【めあて】

2 課題解決のための実践(実習)計画を作成する。

- ・ノートやワークシート、教科書等を振り返らせる。
- ・前時までに習得した知識及び技能を活用して計画を立てさせる。

3 実践(実習)計画について検討し、改善する。

- ・児童生徒同士で計画について、意見交流をさせ、よりよい計画になるよう検討し合わせる。
- ・検討したことを踏まえて、計画を改善させる。
- ・課題を解決することができる計画になっているか確認させる。

4 本時の振り返りをする。

- ・本時の学習を振り返り、ワークシート等に記述させ、発表するように促す。

単位時間の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】

○前時までの学習内容・振り返りを確認する。
 →学習状況を把握し、本時の見通しをもてる。

<例>

- ・作りたい袋を考え、作り方の情報を収集する。
- ・ゆで野菜サラダのイメージを膨らませ、調理計画を立てる。

【調査活動】

○デジタル教材を活用する。
 ○インターネットで情報収集をする。
 →各自の課題に取り組む際の情報を収集することができる。

【学校の壁を越えた学習】

○学校外の専門家等から意見や情報を得る。

<例>

- ・献立作成ソフトウェアを活用し、献立の栄養バランスを検討する。

【思考を深める学習】

○デジタル教材のシミュレーション機能で確認する。
 ○端末等の写真・動画機能を使って既習の内容を確認する。
 →学習課題を試行し、各自の計画を検討・見直しすることができる。
 →保存情報から新たな気づきへつなげる。

【協働での意見整理】【協働学習】

○端末を活用して、実践計画を共有し、検討する。
 ○書き込み機能等で意見を共有する。
 →個々の考えを共有し、多くの児童生徒の言葉を基に、まとめることができる。

【学習データの蓄積】

○端末等へ振り返りの内容を記録する。
 →自己の学びの確認ができる。
 →次時の学習への見通しがもてる。

<実践(実習)での活用>

【個に応じた学習】

○調理や製作の過程で、動画を見て確認する。
 →一人一人の理解やつまづきの状況に応じた学びをめる。
 →児童生徒の技能や進度に応じた学習を進める。

<活用できる動画の例>

「切り方」「火加減の調節の仕方」「縫い方」等

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

○フラッシュ型教材を活用して前時の学習内容を確認する。

○大型提示装置で学習計画を提示する。

○大型提示装置で本時の学習に関連する資料を提示する。

○大型提示装置に実践計画を提示して学級で共有し、比較・検討する。

○大型提示装置で個々のまとめを表示する。

○大型提示装置に学級としてのまとめを表示する。

○大型提示装置で個々の振り返りの共有・紹介をする。

はばプラⅡ 家庭科・家庭分野 「まとめる」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【「めあて」の設定】
 ○本時で家庭や地域の実践につながるまとめとなるように、「活動・テーマ」の要素に係る「めあて」が多くなる。
 <例>
 「～～（課題を解決）するために、これからの生活でできることは何か考えよう。」

【改善策の検討】
 ○自分の考えの根拠や理由を明確にして改善策を考えさせる。
 ○学んだことを実際の生活で生かす視点で改善策を考えさせる。
 <改善策を考えさせる際の視点の例>
 ・目的にあった実践をするためには、どうすればよいか
 ・よりよい生活を送るためには、協力・健康・快適・安全、生活文化の継承などの視点から、工夫するとよいことはあるか
 ・(製作の場合) もっと使いやすくするためには、どのような工夫をするとよいか

【題材の課題についてのまとめ】
 ○題材の初めの姿と比較し、題材を通して自分が成長したことを実感できるようにする。
 <例>
 「題材の課題」を解決するためには、～～する。

【振り返りの視点】
 ○題材全体の学習を振り返って、分かったことやできるようになったこと、これからの生活で生かしたいことを考えさせる。
 <例>
 ・「○○について、もっと～～にしたい。」
 ・「今度は、～～～にしてみたい。」

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。
 ●学習の計画における本時の位置付けを確認させる。
 ●本時は、題材の学習のまとめであることを確認させる。
 ●前時の実践(実習)を想起させる。

【めあて】

2 実践の評価を基に、改善策を検討する。
 ●自分で評価したことについて児童生徒同士(ペアやグループ)で意見交流をさせる。
 ●課題を共有し、改善策について、個人で考えさせたりグループで話し合わせたりする。
 ●「もっと○○したい」「今度は○○をしてみたい」「○○にするにはどうすればいいのだろう」など、新たな課題を見付け、全体で共有する。

3 題材の課題についてのまとめをする。
 ●題材の課題を提示する。

【題材の課題】
 ●教科書やノート、ワークシート等を振り返り、題材の学習を通して、できるようになったことや分かったことを確認させる。
 ●題材の課題について解決ができたか確認させ、実際の生活につながるまとめをする。

【題材の課題】のまとめ

4 題材全体の学習について振り返りをする。
 ●題材全体の学習を振り返り、ワークシート等に記述させ、発表するように促す。

題材全体の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動 協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】
 ○前時までの学習内容・振り返りを確認する。
 →学習状況を把握し、本時の見通しをもてる。

【学習データの再生】
 ○実践(実習)の様子を撮影しておき、自らの実践を振り返る。
 →次の課題を見付けることができる。
 ○繰り返し再生して、確かめる。
 →適切な技能を身に付けることにつながる。

【表現】
 ○題材の学習データを基にして、分かったこと、できるようになったことを入力し、教員用端末に送信する。
 →一人一人の考えが共有できるとともに、多くの児童生徒の言葉を基に、題材の課題についてのまとめができる。

【学習データの蓄積】
 ○端末等へ題材のまとめや振り返りの内容を記録する。
 →題材を通しての自己の学びの確認ができる。
 →これからの生活での実践に意欲がもてる。

<家庭や地域で実践する場面での活用>【個に応じた学習】
 ○家庭での実践の様子を記録・保存する。
 ○写真や動画を映して、家庭や地域での実践計画を発表したり、実践発表会をしたりする。

【調査活動】【発表や話し合い】
【思考を深める学習】
 ○実践活動を撮影した写真や動画を見て、評価する。
 ○実践活動のまとめ(計画、実践、評価、改善策をまとめたもの)を共有する。
 →根拠を明確にして説明しながら相互評価することができる。
 →実践活動の工夫を共有しながら発表することができる。
 →次の実践でやってみたいことや新たな課題を見付けさせる。

【思考を深める学習】【協働での意見整理】
 ○大型提示装置や端末を活用し、個々の意見を集約、分類・整理する。
 →多くの児童生徒の言葉を基に、題材のまとめができる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

○大型提示装置で学習計画を提示する。

○大型提示装置で本時の学習に関連する資料を提示する。

○実践活動を撮影した写真や動画、友達の工夫等を大型提示装置に提示し、共有する。

○大型提示装置等を活用して個々のまとめを表示し、共通点・相違点を整理する。

○学級としての題材のまとめを大型提示装置に表示する。

○大型提示装置で個々の振り返りの共有・紹介をする。